

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503718		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家伍番館		
所在地	札幌市白石区菊水上町1条2丁目179番地5 (電話) 011-837-1321		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年12月15日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年1月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤15人, 非常勤0人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2・3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,800円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	無		暖房費 9,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	330円	昼食 450円
	夕食	413円	おやつ 105円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 78.4歳	最低	73歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白石中央病院・さくらデンタルクリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の変更によって事業所の名称が変わり、地域の中で信頼が得られるグループホームを目指して、町内会行事の参加や運営推進会議の開催など前向きに地域密着型サービスに取り組んでいる。家族の意見や要望などを聞く手だてとして家族面談記録シートを作成し、詳しく記録をしている。利用者は事業所に閉じこもりにならないように、日常の買物、近所の美容室利用、病院の受診など外出の機会を多くするように支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の啓発に地域向けの広報を発行している。介護計画の見直しは3ヵ月ごとに実施し、毎月一人ひとりの状態を検討している。定期健康診断の受診は掛り付け医のもとで受診している。緊急時と感染症対策にマニュアルを整備した。市との連絡は細かにしている。地域の人達との交流は夏祭りの頃から良好になってきた。前回の評価を活かした取り組みが各処に見られた。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、時間をかけて検討した。取り組む課題について日々のサービスを振り返り、質の向上に努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は1回しか開催していないので、まだ定例化するまでに至っていない。徐々に改善されることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に「たより」を毎月発行しているが、意見や要望はほとんどない。直接の申し出がない。家族がきた時は「家族面談記録」を管理者が記載し、必要事項の共有を行なっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) この地で開設して日が浅いので、毎日の生活が地域の中で自然な形で営まれることが地域と連携がもてるようになる。例えば、ゴミだしや町内の行事に参加、また、町内会長さんの店で買物をするなど、地域との連携がとれるように努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員はホームの理念、ケアの理念、家訓など共通の考えで理念の具体化に向けて取り組んでいるが、地域密着型サービスを提供するための理念が欠けている。	○	事業所独自の理念に地域密着型サービスとしての文章化が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の見やすい場所に掲示し、さらに職員一人ひとり記載した用紙を常に携帯し、実施に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的にはゴミだしを利用者が職員とともに行ない、町内の方々と親しく会話をしている。町内会の行事にできる限り参加している。買物に町内の店を利用し、交流に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み時間をかけて検討した。前回の課題について、改善に向けて、努力をした。		

札幌市白石区 グループホーム ハートの家伍番館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年1月開設以来1回のみで、まだ会議が定着していない。意見や話し合いが不足している。	○	運営推進会議が定例化されて、開催されることが求められる。さらに、運営推進会議について職員全員が共通理解をもつことが望ましい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の責任者は管理者会議に出席し、行政からの通達や定期報告など連絡を密にしている。疑問が生じると相談し、指導を頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子が分かる写真などを盛り込んで「ホームだより」を発行し、暮らしぶりを家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は直接申し出はないが、家族が事業所にきた時は、「家族面談記録」を管理者が記載し、職員との共有をはかり反映させている。また、「意見箱」の設置もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交替は非常に少ない。止む得ずの場合は、複数で対応し、次第に慣れてくるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内で合同の研修会が年に2回ほど開催されている。また、外部の研修にも積極的に参加するように配慮があり、後日報告の場を設定し、内容の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にグループホームが4カ所あり、合同の行事が実施されている。もちつき大会、温泉旅行、お花見など親しく交流があり利用者の楽しみとなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人のみならず、家族を含めて、事前に見学や話し合いなど、十分納得してからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は日常的に教えたり、教えられたりともに過ごしながら、事業所内で家族のように暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な利用者とは、話し合いや表情で個別に思いを把握し、事業所での生活が満足できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所では利用料の払いを直接事業所の窓口としているので、家族の面会が多い。介護計画は利用者、家族、関係者と話し合い、それぞれの意見を反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の内容検討会を開催し、利用者本位か否か、職員は話しあっている。現状に即しているか検討して、3ヵ月ごとに見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターの大きな浴室を利用したり、要望に応じて美容室へ行ったり、病院の受診などの外出支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は全員が医療のお世話になり往診の医師が事業所へ定期的に来て健康チェックをしている。利用者一人ひとりの病名、薬、通院記録がファイルされ、職員が分かる仕組みになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は整備されていない。事業所独自ではなく法人は計画し準備中である。	○	事業所として単独の方針より、法人全体の問題で取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、失礼のないように、プライドを尊重し言葉掛けなど配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はできるだけ利用者のペースに添って希望に合わせるように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。さらに、後片付けなど利用者が手伝う姿も見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、週2回は入浴をしている。また、デイサービスセンターの浴室を利用して温泉気分を味わうこともある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、事業所の中でそれぞれ出来る範囲で役割が決められ、強制でなく自発的に責任をもって楽しみながら取り組んでいる。職員は誘導しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月発行している「たより」に見られるように、季節のレクリエーションでお花見、遠足、温泉旅行など外出は多く実施されている。日常的には通院介助、美容室へ同行、買物など個別に支援している。		
でお花見					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は1階のデイサービスセンターとは別にあり、事務室から出入りの把握が容易である。ユニットの入り口は開閉が分かるように工夫があり、夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を実施している。地域の協力体制についてはまだ働き掛けはしていない。	○	災害時は併設のデイサービスセンターも含めた地域との協力体制が求められる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部で献立表を一括作成し、定期的に関係機関の管理栄養士に内容確認を行なってもらっている。利用者向きの美味しい食事が提供されている。食事の摂取量など細かく個別に記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体として広さが十分あり、職員の部屋が中央にあり、利用者の様子を把握しやすい。台所と食堂は使いやすい間取りで、共有空間はゆったりとして居心地良く暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みのタンスやテレビなどを持ち込み、落ち着いた自分の部屋になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。